

図1 東北地方の脊梁を横断する比抵抗断面(Ogawa et al., 2001)。測線は本荘から花巻に至る。図中の星はS波の散乱体、白丸は微小地震の震源を表す。断層のジオメトリは、反射法地震探査及び変動地形学的な推定による。

図5 跡津川断層を含むひずみ集中帯を横断する比抵抗断面 (Yoshimura et al., 2009)。低比抵抗 (C2) と高比抵抗 (R1) の境界で微小地震が発生する。

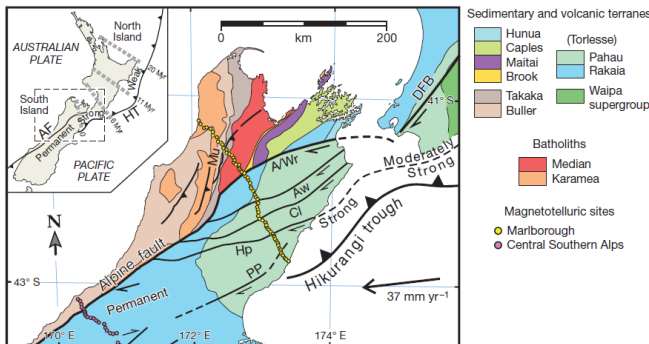
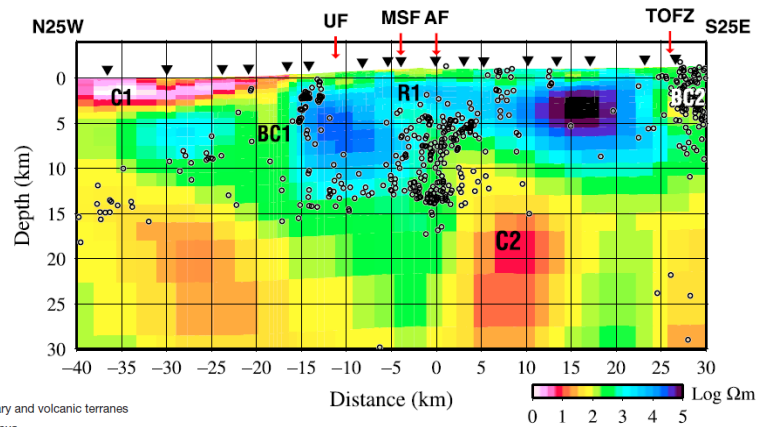


図6 ニュージーランド南島北部を横断するMT測線 (Wannamaker et al., 2009)。

図7 ニュージーランド南島北部の2次元比抵抗断面 (Wannamaker et al., 2009)。白い十字が震源位置を表す。Mu, A/Wr, Aw, Cl, Hp, Wa/PP はそれぞれ断層の位置を表す。図中のA, B, Cにおける流体の役割については図8に示す。低比抵抗体Aでは未固結の堆積層中で地震が発生する。横ずれ断層Bでは、断層の深部延長に流体だまりがあり、その上方に地震発生層がある。Cでは、プレートから大量の流体が供給され、巨大な高角逆断層が発生しうる。

